



支え合い協議会  
多分野から多数参集、  
意見交換

昨年の1月号で支えあい協議会とは、の解説と令和6年7月に10分野から76名の参加でブレインストーミング(BS)会が開催された、と記載したが、このBS会で出た多くの意見は、山辺の目指す地域支えあいの形の「スローガン」「ごちゃまぜの見守りができ、お困り事が繋がる地域」に集約して纏めることができた。(上にイメージ図を示す)

これを今後の地区内組織・団体での福祉に係る活動指針としていくことを提案する。

この中の「知らないことが多

## 災害講座と能登復興太鼓の響き

市社協主催で地場産ホールにて10月25日開催。

第一部基調講演は災害支援コンサルとして全国を飛び歩いている井岡仁志氏。講題「人口減少・災害多発時代の地域助け合い活動」分り易く整理され、共感できる内容。要点を記す。

- ・人口減少は地域社会に多様な課題を発生せしめている。
- ・災害は日常平時に繋がっている。(日常の中で起こる)
- ・平時の取組が無ければ対応はとれない。

すぎる」の意見から、地区情報共有型福祉マップの作成に取組んでいます。少々遅れ気味、年度内完成を目指します。

外出支援策についても、移動販売車増に加え、送迎策検討を進めている。

この意見集の中からテーマを取り上げ、深ぼりする交流会を継続していくが、本年度のBS会は「多世代の顔の見える関係づくり」のテーマで11月26日、73名の参加で行なわれ、又々多くの意見が出されている。纏まり次第報告します。

・周りが知らなければ取残され助からない。

・共助の前の近助を

第二部トークセッションは能登地震・豪雨災害の被災の真ん中から復興支援に紛争している梶谷雅也氏の「その時何が？ 災から未来へ」。

今30才の彼は高卒後四国の和太鼓集団に入り世界を舞台に演奏活動に邁進、故あって令和4年輪島に帰郷、市社協職員となった所でこの一重大災害に遭遇、被災しながら救済から復興

への重要な責務を担う立場に押されていく。話を聞くに、大いなる天の計らいかと思われる。

第三部は小二から高校生までの能登高洲太鼓・復興の響き。去年、支援への御礼として来足してから2回目。汗を浮かべての力一杯の演奏は、ズン・ズンと腹に胸に響き、感動の波動になつていく。

このイベントに山辺地区社協の給食サービス委員会が、能登太鼓一行30余名、協賛出演の足高書道部、講座先生方、市社協関係者等へ、カレーライス約100食を調理し昼食として提供、喜ばれた。



昨年被災後初の市外演奏が足利への御礼演奏だった由。見覚えのある顔も遅くなっている。絆を繋いでいこう。